

# 吹奏楽指導者育成塾2024「指揮法編」

## 第2回

今回も私の指導している動画になります。  
色々と気づきを共有させていただきます。

### 📺 吹奏楽指導者育成塾2024「指揮法編」第2回【資料動画】

## 1 シンガポールからの手紙 P.スパーク

基本的には

### ①技法について

「叩き」

と

「平均運動」、「しゃくい」

を使っています。

### ②調性について

調性によって、また転調によってとたんに「音ミス」が増えてしまいます。

アマチュアでは仕方がない部分ですが、「楽譜をよく見る」習慣を身に付けるためにも、音間違いがあればやり直す、テンポを下げるなどして修正したほうが良いです。

また、「音」の質が落ちるのも気にして指摘しましょう。

スケール練習の重要性を繰り返し伝えることが大切です。

### ③ダイナミクス 05:20頃

手の動きは、事前に見せるときと見せない時があります。

#### 1) 拍前に見せる

確実に音量を変化させる、発音のニュアンスを変えるために事前に提示します。

#### 2) 同時に手を変化させる

一緒に音楽の流れにのって、急に変化させます。

聴衆にも「突然」が伝わりやすいです。

久しぶりだったので最初にテンポを落として確認して、再度インテンポで合奏しました。

### 05:50~ インテンポ

テンポに乗ってる感は出ますが、身体が上下すると指揮が見づらいですね。

## 2 レトロ 天野正道

ポップスは基本「指揮棒」を持たないようにしています。

指揮棒があると、手が延長されるため素早い動きがしにくく(小さな棒先での動き)になってしまい、ポップスのパワフルなノリやビート感が出ないと思っています。

また、ドラムセットがあるので、基本的にはテンポキープはリズム隊、ベースラインに任せて指揮者はノリを表現するという考えです。

昨年度、大変多くの学校が取り上げた課題曲！？の「レトロ」  
やっぱりポップスステージでエレキベースを入れて演奏したい曲ですね。

ということで、合図を出したり、フレーズを一緒に歌ったり。  
指揮をされていてとても楽しいです。  
ただ、合奏ではより丁寧に曲の内容を確認していきます。

今回は後半の合奏がメインでした。

後数回の合奏で最後まで合奏して、しっかりと仕上げないといけません。

しかも、本番の指揮はシンガポールからゲストでいらっしゃるレスター先生なので、もう少し気合を入れて頑張ります。

## 3 たなばた 酒井格

実は初めてこの作品を演奏します。

冒頭のコラール風オープニングが難しい！

♩=40 で指揮がある程度テンポとアインザッツを出してあげる必要があります。

上手いかない演奏の原因に、指揮者も大きく関与しています。

実際に指揮してみて実感しました。

### ①平均運動

このテンポは強制力を発揮できません。

でも図形でしっかりとテンポを感じてもらおうようにしています。

### ②先入

ユニゾンで動くので、入るタイミングを明確にするために「先入」を使っています。

### ③テンポの変わり目

左手でクレッシェンド、右手でテンポ と左右使い分けています。

実はこれが必要な曲は多数あります。

ぜひ、鏡の前でメトロノームを使って練習してみてください。

### ④テンポ

やはりアマチュアの指揮の場合、指揮者がしっかりとメトロノームをしてあげる事で演奏は格段に安定します。もっと音楽を表現したいところではありますが、ある程度きっちり、かっちり振ってあげると演奏はより良くなると思います。

## ⑤ソロの指揮

29:40

アウフタクトの合図はもっと分かりやすく、小さくした方が良いです。

やはり図形はしっかり分かりやすく、声部の振り分けなどをしてあげると、演奏はしやすいです。指揮者の意図がしっかりと演奏者に伝わるようになります。

指揮を見てもらうためには

「意図の伝わる指揮」

を心がけましょう。

4 伝説の演歌メドレー 編曲 金山徹

時間がなくて、とりあえずざっと通しました。

第1回 [レジュメ](#) [資料映像](#) [講義記録動画](#)

第2回 [レジュメ](#) [資料映像](#) [講義記録動画](#)